

留学体験レポート

川俣朝翔

文化に焦点を当てて自分の見解を述べる。私が実際に感じた中国と日本の文化の違いを説明する。特に大きな違いを感じたのはマナーを含めた食文化である。日本にはない香辛料で作られた料理なども食べることができ、互いの国の違いや良さを感じた。また、伝統的な中国の食べ物や日本でも有名な中国の料理を食べることができたのもいい経験となった。カップラーメンなどの身近な食べ物一つとっても両国で似ているものもあれば全く違うもの、または、互いの国のラーメンに似せたカップラーメンも販売されていた。日本でも有名であるが、実際に中国で北京ダックを食べることができたことはとても嬉しかったし、いい経験となった。日本の北京ダックのように大部分が皮ではなく、ジューシーな肉も付いていてとても美味しく、また、目の前でさばいてもらえたのでとても面白かった。しかし、食事のマナーという点に関しては深刻なものであった。いらない具などがあれば机の上に捨てたり、食べ散らかしたりする様子には衝撃を受けた。私は中国人の友達に「なぜ捨てるのか」ということを聞いてみた。彼女は、「様々な国に行ったことがあるが他の国では見たことがない、しかしこれが今の中国の現状だ。」と言っていた。中国は今もなお経済を中心に急速に発展している国でもあるため、マナーなどの大切な文化としての要素が欠落してしまっているのだと考える。中国人のマナーに関する問題は他の国でも度々取り上げられているのが現状である。今後さらに経済が発展し金銭的に豊かな人が増えれば旅行などで海外に行く人もだんだん増えていくだろう。マナーに関する問題を解決することは重要な課題であり、また、そういった点で優れている日本と協力することは互いの国にとって有益なことであると考えます。また、サービスが有名だというレストランにも行ったが、友達とゆっくり話すこともできず、決して素晴らしいと言えるものではなかった。すべて手伝えばいいと思っているようだったが、それは過剰なサービスであり、素晴らしいサービスとは言えない。客同士の会話の邪魔をせず状況を見て程よく提供するということが素晴らしいサービスというものである。こういった点でも日本の食品業界と協力していくことが大切なことだと考える。このように、食文化だけでも異なる点や協力することができる点はたくさんある。政治や経済面だけでなく、こういった文化や伝統などの視点から両国の関係を再び良好なものにしていくことも重要な課題である。